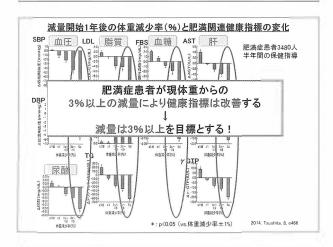
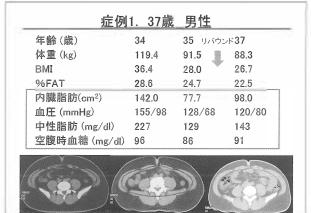
平成31年2月9日

肥満症の治療戦略

大阪府済生会中津病院糖尿病内分泌内科

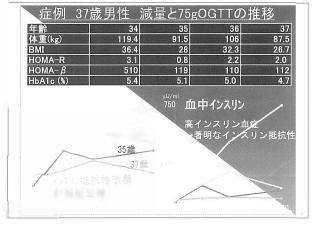
新谷 光世, 橘 祐希, 山本 果奈, 高瀬 真吾, 満田 佳名子, 吉田 有希子, 田中 早津紀, 前田 康司

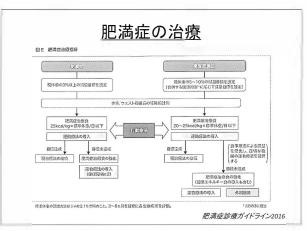


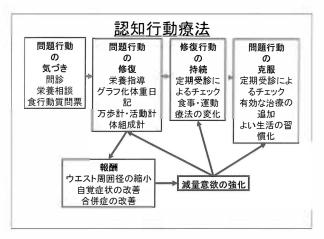


肥満症の治療 日本肥満学会基準 BMI(kg/m²) WHO基準 低体重 < 18.5 Underweight 18.5 ≤ ~ < 25 普通体重 Normal range 25 ≦ ~ < 30 肥満(1度) Pre-obese 30 ≦ ~ < 35 肥満(2度) Obeseclassi 35 ≦ ~ < 40 肥満(3度) Obese class II 高度肥満 40 ≤ 肥満(4度) Obese class IIII **肥満症診療ガイドライン2016**

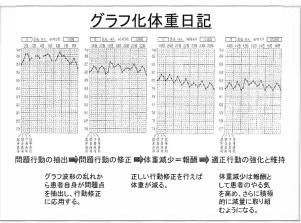








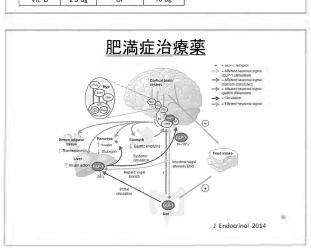




<u>食事療法</u>	·運動療法
Statement at homes - 1 page.	
1 肥満産の治療は資事療法が基本となる。食事 療法を表行することでや原理制度の減少が得ら れ、肥減に伴う健康政治の改善が得合できる。 (国語) A 「基础! 1 2. 体重減少のためには、食事摂吸エネルギーの派 途が物がである。 (国語) A 「基础! 1 3. 2 版のが、全 財産の 2 年後では、 2 5 版のが、2 日間 (3 5 km)が、の原準度では、 2 5 版のが、2 日間 (3 5 km)が、の原準度では、 2 5 km)が、2 日間 (3 5 km)が、の原準度では、 2 5 km)が、2 日間 (3 5 km)が、2 年間 (5 km)が、4 単位 第 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	5. 指示エネルギ 52 ~60%を創物と1、15 ~ 20%を第日程 20 ~ 25%を開始とする。
4. BMI ≥ 35 kg/m ² の高度肥満産では、20~25 kg/m ² の高度肥満産では、20~25 kg/m ² の高度性加工を自営に用版工を加 + 一量を製工、病態に応じて現在の他の と5 - 10%の変更を目指す。減量が明られない場合 は60 kg/m ² /m ²	配満症診療ガイドライン 2016

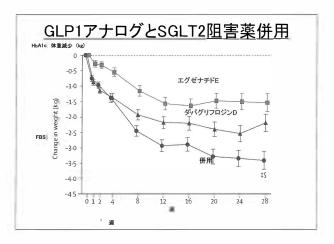
食事療法・運動療法 Statement 1 治療法院 2 注解係法 「運動療法は減量および肥満予防に有用である。 「国面の A 【evel I 2. 運動療法は減量体重の維持に有用である。 「国面の A 【evel I 3. 有酸素運動は単独または食事療法との併用により、糖質・脂質代謝指標・血圧の改善【evel II や、糖尿病の発症予防効果 【evel I をもたらす。 「国面の A 【evel II を決定しません。 「国面の A 【evel II 配稿症診療ガイドライン 2016

	フォー	ミュラ負	(十个	ドキュア(R)
栄養成分	オベキ	ュア ココア1	袋(50 g)	
カロリー	170 kcal	Vit. E	10 mg	Ou Cure
蛋白質	22 g	Vit. K	5 ug	. See
脂質	2 g	ナイアシン	15 mg	200
糖質	15 g	パントテン酸	3 mg	1
食物繊維	4.5 g	Ca	330 mg	
Na	230 mg	Mg	165 mg	
Vit. A	300 ug	Fe	6 mg	
Vit. B1	1.4 mg	Р	300 mg	
Vit. B2	1.6 mg	К	500 mg	
Vit. B6	1.4 mg	I	20 ug	
Vit. B12	2.4 ug	Se	10 ug	
Vit. C	50 mg	Zn	3.5 mg	
Vit. D	2.5 ug	Cr	10 ug	

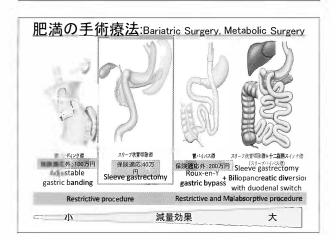


フォーミュラ食(オベキュア®) 蛋白 カロリー 糖質 脂質 食事療法 質 170 57 g 食事のみ 1200 kcal 32 g £ コンビネーショ 少法 (食事500 koal) 157 70 g 1170 kcal 29 g x 2 5 + フォーミュラ 食1回) フォーミュラ食3 66 g 45 g 510 kcall 8

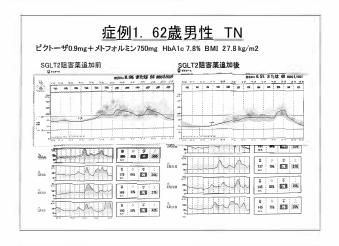
<u>肥満症治療薬</u>					
-DA認可	エネルギー浪費 リパーゼ阻害薬 オルリスタット	エネルギー消費増大なし	食欲抑制 GLP1アゴニスト リラグルチド 5HT2Cアゴニスト フェントラミン ナルトレキソン		
治験中	SGLT2阻害案	なし	GLP1/プゴニスト セマグルチド GLP1/2アゴニスト GLP1/グルカゴン アゴニスト PYY アゴニスト MO4素 アゴニスト		
中止	リパーゼ阻害楽 セチリスタット	ミトコンドリア脱共役薬 甲状腺ホルモン β3受容体作動薬	グレリン拮抗薬 リモナバン NPY Y5受容体拮抗薬 など		



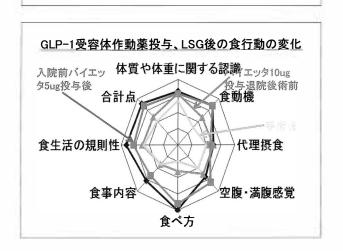
症例1. 62歳男性 TN SGLT2阻害薬 追加後 追加前 平均血糖 (mg/dl) 177.3 143.2 SD 57.4 46.6 最高血糖 (mg/dl) 409 316 最低血糖 (mg/dl) 67 99 180mg/dl以上 34% 18% 6.1 2か月後 HbA1c (%) 7.6 体重 (kg) 70.8 65.1 2か月後

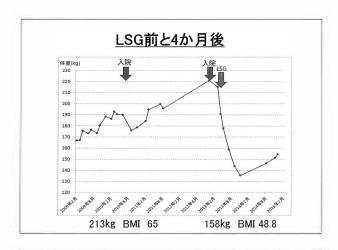


GLP1アナログとSGLT2阻害薬併用 **・⑥ Exercated once workly plus dapageflatin once daily versus districts inadequately controlled with merforms monatherapy (UMATICH 8): a 21 Meet, multicentric double-slind, phase 3. randomiced centrolled trial 第3相 多施設ランダム化二重盲検試験 28 週 HbA1c 8 — 12% メトフォルミン1500mg以上使用2型糖尿病患者 ①エグゼナチド2mg/週 ②ダパグリフロジン10mg ③ ①+②併用 年齢 54歳 男性 55 % BMI 33.2kg/m² HbA1c 9.3 % 罹病歴 7.4年 血圧 130/78 mmHg eGFR 97.7ml/分/1.73m² 一次エンドポイント 28 週後のHbA1c 二次エンドポイント 空腹時血糖 2、28 週後 28 週後 食後2時間血糖、体重、血圧変化量、 HbA1c 「7.5 株 体重、加圧変化量、 HbA1c



肥満症外科治療





LSG前と4か月後

	術前	3週間後	2月後	4月後	6月後	12月後	18月後	24月後	26月後
HbA1c(%)	7.1	6.0	5.7	5.0	5.2	5.4	5.5	5.3	5.6
GOT (IU/I)	56	37	31	19	17	16	16	19	21
GPT (IU/I)	74	48	62	26	18	18	21	28	22
γGTP (IU/I)	70	46	61	33	26	29	34	54	42

肥満外科手術前後の経過4例まとめ

	43歳女性	43歳女性	33歳男性	26歳男性
術前BMI	41.5	45.2	65.7	40.6
脂質異常症	あり	あり	あり	あり
高血圧症	なし	あり	あり	あり
糖尿病	なし	なし	あり	あり
術前体重(kg)	114.7	114→107	215 →203	141→124
	超過体	重減少率		
1か月後(%)		-33.5	-185	-176
3か月後(%)	-27 1		-32 7	
6か月後(%)	-44.8	-77.0	-50.0	-53 4
9か月後(%)				
12か月後(%)	-55.7	-88 1		
15か月後(%)	-59.2			-57.3
18か月後(%)	-58.1	-83 6	-420	-67.7
最低BMI	30.1	24.8	43.8	28.0
最大減少体重(kg)	-31.9	-46.0	-67.6	-67.9
糖尿病	なし	なし	寛解	寛解
高血圧症	なし	寛解	改善	寛解
脂質異常症	改善	寛解	寛解	改善

「高齢者肥満症 診療ガイドライン 2018」

表 4 高齢者肥満の食事療法

- 1. 減量による利益とリスクを勘案して、減量を行う
- 2. 体重減少のためには、食事摂収エネルギーの減量が必要である
- 3. エネルギー量は1日25 kcal×標準体重 (kg) 以下を目安とし、現在の体重から3~6カ月で3%の減少を目指す
- 4. 指示エネルギーの50から60%を糖質. 15~20%をたんばく質、20~25%を脂質とする
- る。 場場者における商誉担実制の安全性は確認されていないことから、極<u>海な蓄着別別はのぞましくない</u> 6 サルコペニアやフレイルの予防のためには、<u>たるばく質の場象は全なくともはのとなり</u>機能を担ととることが望ましい。
- 7. サルコペニア肥満では十分なたんばく質の摂取が必要とされるが、重度の腎障害では注意する
- 8. ビタミン、ミネラルの十分な摂取が必要である。
- 9. フォーミュラ食を1日1回利用することで減量できる場合もある
- 10. 80歳以上の高齢者の武量に関してはエビデンス<u>が</u>よい

まとめ

- ・ 食事、運動、行動療法を併用し、医師のみな らず多職種でチーム医療を実践することが重 要。
- 高度肥満症では、肥満症外科治療も選択肢 のひとつ。
- ・肥満糖尿病では、食事、運動療法に加え SGLT2阻害薬、GLP1アナログなどが血糖コント ロールのみならず、血圧、減量に有用。
- 高齢者の場合、リスクとベネフィットを考慮し て減量を行う。

ご清聴ありがとうございました。

糖尿病関連スタッフ

糖尿病内分泌内科: 医師 8名(糖尿病学会専門医 5名 指導医 1名

内分泌学会専門医 3名 指導医 2名)

糖尿病認定看護師 1名

糖尿病療養指導士 19名(看護師 3名、検査技師 2名、栄養士 3名、理学療法士 2名、薬剤

師 9名) 糖尿病外来患者数

2563名/月(約5500名のDM患者) 糖尿病入院患者数 500名/年

4124名/年(のグ) 糖尿病教室参加者数



